

令和4年度 保育所の自己評価

伊勢原愛児園

	自己評価の観点	内容及び課題
保育理念	子どもの最善の利益の考慮	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの最善の利益を考慮した保育の基本理念、基本方針、保育目標に沿って、子どもを主体とした日々の関わりや信頼関係の構築ができるように努めた。 子どもの人権については職員間の共通意識を高めた。 進むべき方向性が職員皆同じになるように、年度始めに全職員で誠心福祉会CREDOの再確認を行った。
子どもの発達援助	子どもの福祉を増進することにもっともふさわしい生活の場 生活と発達の連続性 養護と教育の一体的展開 環境を通して行う保育	<ul style="list-style-type: none"> 子どもが心地よく過ごすことのできる環境を、その年齢に応じて整備した。 登園時や保育中の子ども一人ひとりの健康状態の把握に努めた。 健康診断や歯科検診の結果について、保護者や職員に伝達し保育に反映させた。 子どもの食生活を充実させるために、食育指導等を実施し、家庭と連携を図った。 子どもの個人差や性差、国籍の違いへの配慮に努めた。 園生活と家庭生活の連続性を考慮し、家庭との連携に努めた。 異年齢児交流として「なかよしクラブ」を年間を通して適宜に実施した。 さつまいも作りや野菜作り、みかん狩りなどを通して食への関心を高める活動をした。 園外保育や散歩などを多く取り入れ、1年を通して自然環境に触れ合うことのできる保育、体力向上を図った。 今年度もコロナウイルス感染症拡大防止の観点から、様々な行事を中止や変更にしたがその中でもできること、どうしたらできるかを考え、子どもたちにとって有意義な1年になるよう努めた。
保護者に対する支援	家庭との緊密な関係 地域における子育て支援	<ul style="list-style-type: none"> 子育てのパートナーとしての役割を常に意識した取り組みとして「保護者の一日保育体験」を行っているが、今年度もコロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止とした。 連絡ノートやえんだより、クラスだより、クラスボード等で子どもたちの様子を伝えた。 今年度も保育参観や個々面談はコロナウイルス感染症拡大防止の観点から日程等は園で決め少人数で参加できるようにして、子育てに関する相談・援助等、保護者との交流を図った。 園庭開放やふれあいサロンなど地域の子育て支援もコロナウイルス感染症拡大防止に配慮しながら保護者の責任のもとにおいて行った。 利用者の意見等には迅速に対応し、情報の提供も積極的に行った。 入園時に、保育の内容や園生活の内容等について重要事項説明書にて保護者に説明し、同意を得ている。
保育を支える組織的基盤	健康及び安全の実施体制 保育の計画と保育内容の自己評価 職員の資質向上 運営・管理・社会的責任	<ul style="list-style-type: none"> 配慮を必要とする（療育に通っている）子の発達段階への配慮等を共有するため、年2回連携機関との話し合いを行った。 毎月の避難訓練や隔月の交通安全指導の実施により、災害時の対応方法等を子どもたち及び職員（特に新入職員）にもわかる形で指導した。 安全チェックリストに従い遊具等の点検を毎月行い、事故防止に努めた。 また、想定できるヒヤリハットの解消に努めた。 不審者の侵入時などに対応できるよう防犯訓練を年3回行った。 アレルギー対応には栄養士や保育士が会議等を含め連携して行った。 睡眠時呼吸等の確認によりSIDSを未然に防ぐよう努めた。 衛生管理として手洗い、アルコール（イタノール）や電解次亜水による消毒を行っている。 児童の健康管理においては嘱託医との連携を行っている。 （内科検診及び歯科検診2回/年） 組織として各職員の力が発揮できるように、各種研修会（キャリアアップ）に参加し、知識等を深めていった。 人材の採用や確保等、人事管理に課題が今年も残った。 組織として保育士の連携を深める必要がある。 保育士等の自己評価を通し自己の振り返りを行っている。 守秘義務を徹底する事を心がけた。 クラウド等を活用し労務管理や情報の共有を行っている。 ICTを活用して登降園時間管理や指導計画等の書類作成を行った。 働き方改革による労務管理等に取り組んだが、まだ今年も課題が残る。 コロナウイルス感染症拡大防止のため、手洗いやアルコール（エタノール）消毒の徹底を心がけていたため、クラス閉鎖は1回もなかった。また、0～1歳児も飲食時のパーテーション設置をするようにした。 今年度から分園わかば（0～2歳児）をオープンした。実際にオープンしてから気付いたり、検討することもあるが、その都度、分園わかばの職員とともに話し合いを持つように心がけた。

以上、保育所の自己評価を行いました。

結果をもとに振り返り、保育内容の改善、向上に組織として取り組んでいきたいと思っております。

令和4年度 保育所の自己評価

比々多保育園

	自己評価の観点	内容及び課題
保育理念	子どもの最善の利益の考慮	<ul style="list-style-type: none"> • 新保育所保育指針に基づき、子どもの最善の利益を考慮した保育の基本理念、基本方針、目標に沿って、子どもを主体とした保育ができるよう努めた。 • 利用者のプライバシーにはできるだけ配慮した。 • 子どもの人権について、共通理解を持つようにした。
子どもの発達援助	子どもの福祉を増進することにもっともふさわしい生活の場 生活と発達の連続性 養護と教育の一体的展開 環境を通して行う保育	<ul style="list-style-type: none"> • 子どもが心地よく健康で安全に過ごすことのできる環境を整えた。 • 子ども一人ひとりへの理解を深め、発達過程に応じた保育ができるよう研修会に参加したり、職員同士意見交換ができる勉強会を開催し自己研鑽に努めた。 • 子ども同士の関わりを大切に子どもが自発的・意欲的に活動できるよう援助した。 • 保育の中で子どもが困り感を持たないように、気持ちをくみ取り不安をなくせるようにした。配慮が必要な子どもには、その都度寄り添うようにした。必要であれば、市の機関に相談するようにした。 • コロナ禍の保育を考え、子どもたちが楽しめるようにした。
保護者に対する支援	家庭との緊密な関係 地域における子育て支援	<ul style="list-style-type: none"> • 利用者の意見等には、職員会議で改善策を検討し丁寧な対応を心がけた。 • 入園時等にはしおりに基づいて細かに説明するよう心がけた。 • 保護者の意見を聞き、改善点などは職員間で話し合いを持ち改善に努めた。 • 保護者の意向を理解・受容し、それぞれの家庭環境に配慮しながら、日頃より保護者との信頼関係を深め、子どもの育ちを家庭と連携して支援できるよう努めた。 • 個々面談や懇談会等を通して、保護者の子育てに対する不安や悩みに適切に答えられるよう努めた。 • 一時預かり保育では、様々なニーズに応えられるよう積極的に受け入れを行った。 • 地域との交流は新型コロナウイルス感染症のまん延防止のため、今年度は交流は持たなかった。
保育を支える組織的基盤	健康及び安全の実施体制 保育の計画と保育内容の自己評価 職員の資質向上 運営・管理・社会的責任	<ul style="list-style-type: none"> • 組織としての力が十分発揮できるよう、各種研修会（キャリアアップ）に参加し知識を深め、園内の会議等で意見交換を行い共通意識の基保育を行った。外部の研修は、オンラインで参加した。 • 個々の職員に対して、組織としての教育、研修等を適時行う必要性を感じた • 職員が働きやすい環境を作るための面接等を複数回行った。 • 人材の確保等、人事管理を積極的に行う必要があると感じた。 • 実習生の受け入れ・保育体験や職場体験などを積極的に行った。 • 毎月「避難訓練計画表」を基に地震・火災に備えて避難訓練を実施した。また、年一回消防署への通報訓練も行った。児コミとの合同訓練も行った。 • 不審者の侵入時等に対応できるよう防犯訓練等を年2回行った。 • 年度末にはなかったが、正面玄関をオートロック、西門出入口にもカギをつけて防犯対策を行った。 • 毎月「交通安全指導計画」を基に子どもにわかりやすく交通ルールについて学んだ。 • 毎月「安全管理マニュアル&点検チェック表」を基に事故防止に努めた • 感染症防止のための取り組みを市からの情報提供を基に今まで以上に園全体で周知した。 • 「危機管理マニュアル」について職員が周知をはかり、特に0、1歳児のSIDSの対応（睡眠チェック表）等保護者にも注意を呼びかけた。 • コロナウイルス感染症の拡大防止のため、前年度に引き続き手指消毒や給時のパーテーションパネルの設置・以上児の黙食等を行った。

以上、保育所の自己評価を行いました。
結果をもとに振り返り、保育内容の改善、向上に組織として取り組んでいきたいと思っております。